

カメムシ防除 出穂期前研修

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】JA



同JAの担当者（右下）から説明を受ける生産者ら

伊勢は6月下旬の3日間、同JA管内8カ所で出穂期前研修会を行った。近年、県内で斑点米カメムシによる被

害が発生しており、同JA管内でも斑点米が出たことによる品質低下や不稔（ふねん）もみになったことによる収量減少など、年々被害が増えている。同研修会は、出穂期を迎える前に水稻生産者らを集め開かれた。

当日は、同JAの担当者や伊勢志摩地域農業改良普及センターの担当者が、水稻の生育状況、管理の注意点について説明した後、農薬メーカーの担当者が斑点米カメムシ防除の薬剤について解説。

その後、生産者らは圃場（ほじょう）へ移動して、斑点米カメムシを防除する薬剤の使用方法などを確認した。

同JA担当者は「研修会を通じて出水期の圃場管理の大切さを再確認してもらえば、防除などを徹底することで良質米の生産を行い、収量の増大を目指したい」と話す。